

## 2016年度木質物性研究会討論会のお知らせ

### 「変形する木材の身になって考える」

木質物性研究会の討論会を開催します。今回の主題は「変形する木材の身になって考える」です。乾けば縮み、濡れれば膨らみ、引けば伸びるし、押せば凹んで、熱を加えれば形を変える。そのような木材について、研究者達はこれまで様々な議論を行い、様々な問題点を解決してきました。けれども、やはり、生物素材である木材の変形挙動については分からないことがたくさんあります。

このようなテーマの下、今回は特別講演として岐阜大学名誉教授の棚橋光彦先生をお招きしております。さらに、世代の異なる3名の先生方にも変形に関する話題提供をお願いしております。木材の変形について幅広い話題を語っていただきながら、皆さんで熱い議論を行うことができれば幸いです。多くの皆様の参加をお待ちしています。

主 催： 一般社団法人 日本木材学会 木質物性研究会（後援：持続性木質資源工業技術研究会）

日 程： 2016年9月16日（金）～17日（土）

会 場： 討論会（16日）：子規記念館博物館（愛媛県松山市）

見学会（17日）：松山城（木造）

宿泊先： KKR 道後ゆづき (<http://www.kkrdogo.jp>)

#### 講演内容（予定）：

1. 棚橋光彦 氏（飛騨産業株式会社・きつつき森の研究所）「特別講義」

2. 山本浩之 氏（名古屋大学）「木材の寸法不安定性の原因を内部応力の変化という視点で捉え直す」

概要：木材製品の寸法は、ちょっとした環境の変化によって、容易に狂ってしまう。寸法が安定しない原因は細胞壁の内部応力（成功応力、乾燥応力、他）の生滅と関係しているように思われる。その理解は、木材製品の寸法安定化を図るうえで、有用になるものと考えている。

3. 足立 幸司 氏（木材高度加工研究所）「なぜ天然スギはよく曲がるのか？～曲げ加工に適したスギとは～」

概要：BENTOとして国内・海外で今、スギの曲げわっぱのお弁当箱が人気を博している。しかし、天然スギの伐採停止が全国規模で進み、スギ人工林材への資源転換を進める産地では、「人工林材は曲がらない！？」という課題に直面している。今回は、天然スギの曲げ特性の解明と産業の持続的安定性に向けた取り組みについて紹介する。

4. 三好由華 氏（森林総合研究所）「木材の横引張および圧縮変形と破壊について～レオロジー的観点からの考察～」

概要：木材の横引張および圧縮変形と破壊に関わる過去の研究から最新の研究をまとめるとともに、それらの変形と破壊現象についてレオロジー的観点から考察を行った研究例についても紹介する。

- ・ 参加費：一般 3,000 円、学生 2,000 円（食費・宿泊費別）
- ・ 宿泊費・食費：未定（調整中）。参加費と併せて当日受付にて申し受けます。
- ・ 参加申し込み：1. 氏名、2. 所属、3. 一般・学生の別、4. 連絡先（郵便番号、住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレス）、5. 宿泊の有無（宿泊は男女の別を明記）を記入の上、2016年9月9日（金）までに下記宛に E-mail にてお申し込み下さい。

※定員に達し次第、お申し込み終了とさせていただきます

申込・問合せ先：京都大学 生存圏研究所 阿部賢太郎 E-mail: [abekentaro@rishi.kyoto-u.ac.jp](mailto:abekentaro@rishi.kyoto-u.ac.jp)

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学 生存圏研究所 生物機能材料分野

Tel: 0774-38-3695 または 3658、Fax: 0774-38-3655